

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501084		
法人名	有限会社 北海道ふれあいの家		
事業所名	グループホーム ふれあいの家・月寒		
所在地	札幌市豊平区福住1条1丁目9番24号		
自己評価作成日	平成23年8月26日	評価結果市町村受理日	平成23年10月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170501084&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年9月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、地下鉄東豊線福住駅から徒歩で3分、静かな住宅街の一画にあります。建物には、古民家を改修し、庭は広く、樹齢100年以上とも言われるオンコの木があり、夏の暑い日などは、その木の下で涼み、おやつやお茶を頂いております。季節ごとに咲く花々に囲まれ、菜園作りを楽しんでいます。近隣との関係も良く、垣越しの挨拶、会話もあり、時には野菜の作り方も教えてもらいます。昔ながらの漬物や自家製ジュースやジャムを作り、日常、食卓に取り入れています。散歩コースには、大きなデパートやレストランがあり、店の中を散策したり、お茶をしたりしています。利用者さんが穏やかに今までの生活を継続できるよう家庭的な雰囲気を大事にしながら、支援しているホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、地下鉄駅に近い閑静な住宅街に位置し、落ち着いた佇まいの庭付き一軒家である。近隣には病院や商店、大型店があり利便性に恵まれている。開設から10年が経ち、小人数の良さを活かした温かい家庭的な雰囲気が特徴である。ホーム長はじめ職員は一人ひとりを尊重し、きめ細かな介護を行っている。日常生活を大切にしながら季節行事や音楽療法を取り入れ、生活を楽しみながら利用者の残存能力の維持向上を図っている。職員は内外の研修に参加し、実習生受け入れ教育にも協力している。運営推進会議は定例に開催し住民、家族、地域包括支援センター職員の出席があり、事業所運営や災害対策について討議している。地域との関係については町内清掃作業等に参加したり、認知症について相談を受けるなど双方向での交流がみられる。「思いやりの心」を理念として、利用者の心に寄り添い、住み慣れた地域の中で安心して暮らすことができるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアサービスを提供する意味で、常に根本的な考え方に立ち戻る姿勢を心がけている	地域密着型サービスの意義を理解し、事業所独自の理念を策定して事業所内要所に掲示している。理念は会議等で取り上げ、日々のサービス提供場面を振り返り再確認して共有を図り実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や庭などで、地域の人達と挨拶を交わし、話をしたり又、夏祭りの子供神輿など、ホームの前で休んでいただいて交流を深めている	町内会に加入し、清掃作業、町内防火訓練行事に参加している。地域の人から認知症の対応についての相談を受けたり、花や野菜づくりに近所の人の協力を得る等、日常的に交流がある。事業所の避難訓練にも協力的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の総会への出席、当番制の班長を引き受けたり、人材育成の貢献として実習生の受け入れをしている。又、地域の人、認知症の相談があった時はアドバイスなどを出来る限りの事をしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度の運営推進会議を行い、利用者の状況、評価への取り組み、報告をしている。災害時訓練の協力も年に二回参加協力して頂き、意見をいただいています。	運営推進会議は、定例に開催し記録している。会議には、地域包括支援センター職員、地域住民、家族、職員が参加し、事業所運営、行事、災害対策等について討議、検討している。話し合った内容はサービス向上に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区の担当者や日頃から電話や窓口などで、利用者、家族、運営の相談や連絡を行い、連携を深めている	行政担当者や地域包括支援センターとは日頃から連絡を密に取り、事業所運営やケアサービスの取り組みについて実情を伝える等情報交換し、常に協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会をしている。日中は玄関を施錠せず、開放しています	マニュアルを整備し外部研修に参加するほか、内部学習会を行い意識を共有し拘束のないケアを実践している。日中玄関は施錠せず、それとなく見守り安全を図っている。玄関入り口にはモニターテレビを設置して安全を確認しながら自由な雰囲気大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などを受け、その資料をもとに勉強会をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度的な知識は個々の学習等で理解してと思われる。現在、制度の活用が必要と思われる、利用者がいないことから職員間での勉強会まで至っていないのが現状です		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する考え方、取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。状態の変化などにより契約解除に至る場合は、家族と相談し、その後の対応方針も含めて納得を得られるよう説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、運営推進会議などの参加出席をお願いし、又来訪時には、意見、要望等を遠慮なく話してもらえよう常にその環境づくりはしている。	玄関に意見箱を設置し、家族来訪時には意見や要望を聞いている。また、月1回発行している「ふれあい便り」を家族に送付して生活状況を報告している。運営推進会議には家族全員に参加を呼びかけ、複数の参加者を得ており、家族の意見や要望は運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望意見は出来るだけ聞くように心がけているが、不満や苦情は言い難い部分もあると思うが、ミーティング、勉強会、食事会、個別面談等を行い意見、考え方を聞くようにしている。	代表者や管理者は、勉強会、ミーティング、日頃の業務等で職員の意見を聞く機会があり、職員の意見や要望は大切に受け止め、できるだけ運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則等を整備し、処遇改善に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に合った研修を受けられるよう計画している。職責を与え、各自が自信を持って勉強してもらえようとしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者連絡会に参加し交流を深めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活歴に目を向けながら本人とのコミュニケーションを通して、関係づくりをし不安を解消して頂けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談時には、会話だけでなく声のトーン等からも家族の心理を理解するように努めており、事業所としてどのような対応が出来るか、話し合いをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の家族の現状を理解して、当ホームに入所することで、本人・家族がより良い状態になるか、十分に話し合います。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で利用者が出来る事は積極的にして頂き、料理や作法など教えるを請う		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の出来事や気づきの情報を提供して、本人と一緒に支えるため家族と同じような思いで支援してる事を伝えていきます		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や関係者が来訪した時は、居心地良く過せるように配慮しています。外出する際には安心して出かけられるように支援をしている	馴染みの美容室の利用や帰省、墓参りには家族と共に出かけられるよう支援している。家族や友人の来訪時には事業所内でゆっくりくつろげるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から良い関係が作れるようリクレーションやアクティビティを考えています。必要に応じて、職員が間に入るなど見守り、声掛けを忘れない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した時でも今まで通りの対応をし、他施設に移動された利用者など、遊びに来られる雰囲気作りをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の思いや情報を踏まえて本人の希望や意向を言葉だけでなく、表情や様子からも汲み取り、意向に沿うよう把握し努めている	日頃の会話や表情、行動から本人の意向や思いを把握し、家族情報や生活歴、個人記録等を参考にしながら、できるだけ本人の希望に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴に関する情報を本人と家族から教えて頂き、利用者にとっての大切な出来事や思い出を把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの様子を見守り、声掛け、職員間での情報共有し、心身状態を把握する。一日の暮らしの中で個々のペースに合わせて出来る事はして頂いている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に一度、ケアマネジャーと職員が話し合い、気づきや情報を元に介護方法や方向性について考えています。	介護計画は本人、家族の意向を尊重し、医師、看護師、関係者の意見を参考にして職員と共に計画作成担当者が会議で検討し作成している。定期的にモニタリングを行い、変化が生じた時は現状に即して随時介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に日々の様子や排泄、食事、水分量等を記録している。介護計画の見直しは、日々の記録と職員からの情報を踏まえて見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族などが訪問された時には、その時々時間帯で食事やおやつ等、利用者と一緒に食べて頂いています。散歩やリクレーションなども、体調や心身状態を考慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事、清掃や避難訓練、焼き肉などにも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が納得した医療機関を確保しており、週一度の看護婦による健康チェックと、月に一度の主治医による往診と職員による通院介助をしています。	利用者、家族希望のかかりつけ医や専門医とは連絡を取るほか、家族と共に通院支援をしている。月1度提携医による往診があり、事業所看護師と共に日常健康管理を行い、常に適切な医療が受けられるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の健康チェックをしています。日頃の様子や気づきなどを健康チェック用記録簿に記入して、相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には見舞いに訪れ、利用者の様子などを見に行き、家族と連絡を取り合い、担当のワーカー等からも情報交換を行う。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明をしている。状態の変化には都度、電話や手紙文書なり報告をしている。	早期に本人家族の意向を確認し、重度化に伴う意思確認書を作成している。状態に変化が生じた場合は家族、医師、看護師、職員と情報交換し話し合い、方針を共有して事業所としてできるだけ支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防隊による救命処置の訓練を年に一度行っている。看護師による内部会議を行い、日頃から利用者の急変に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の避難訓練を地域の方々で行い、意見などを頂き活用しています。毎日の自主点検と火災時に備えて、非常食・飲料水を確保している。	消防署指導の下、年2回避難訓練を実施している。職員による防火の為の器具点検を毎日行い、毎月自主避難訓練を実施している。避難訓練や連絡網に地域住民の参加協力がある。災害備蓄品を用意しており、スプリンクラー設置を予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その人に合った言葉づかいや、本人の希望を兼ねた呼び方などを考えています。居室に出入りする際、声掛けをして了解を得るようにしている。	人格を尊重し、利用者の一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう職員は言動に配慮して支援している。個人情報記載記録は適切に管理し、保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から本人の思いを引き出すような声掛けをしている。誕生会等企画する際、本人かの希望を聞きメニューを決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿うよう、時間がかかってもして頂き、職員は本人の様子を見守りし、必要に応じて声掛けや介助をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、鏡に向かい、身だしなみを整えてメイクや整髪などとしています。正月や七夕に着物を着たり、浴衣を着たりします。月に一度は訪問美容室等を利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの出来る事を見極め、調理や盛り付けを支援している。昼食など職員と一緒にテーブルに座り、会話をしながら食事をしている。片づけなども積極的に支援して頂き「ありがとう、助かりました」と声掛け労をねぎらう。	献立は利用者の好みを取り入れ、希望や能力に応じて手伝う等、協力して食事づくりをしている。利用者が庭で育てた野菜を利用することもある。職員と共にテーブルを囲み談笑しながらの食事は1日の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のメニューを記録して、栄養士に意見を頂き、一人ひとりの病状に応じた工夫をしバランスを考へてる。水分摂取量は介護記録に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた対応をしている。一日一回義歯洗浄剤を使用し、洗浄と歯磨きの際、口腔内を観察している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人のプライドに配慮し、一人ひとりに合わせた、リハビリパンツやおむつを使い分けて、自立に向けた声掛け、トイレ誘導を行っている。	排泄記録をチェックして個々の排泄パターンを把握している。動作や表情等からも察知して事前にさりげなく誘導し、トイレでの自立排泄に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のメニューからも考慮し、野菜、水分摂取に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番は利用者同志の話し合いで決めている。入浴剤を使用し浴室を十分に温め、足浴をしながら洗身をして温まっていたいでいます。	利用者の一人ひとりの体調や希望、タイミングに合わせて入浴できるよう努めている。週2回以上を基本としており、足浴やシャワー浴も取り入れ、安全に配慮しながらゆっくりくつろげるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせ居室や居間などで、休んでもらう、思い思いの時間を過ごして頂き珈琲など提供しています。天気の良い日は、布団を干し、寝具の点検・衛生保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬剤管理簿を見ている。新しい薬など処方された時もそうですが、しっかりと観察をする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	晴れた日は庭に出て、花を眺め、草むしりなど、作った野菜の生長を喜び楽しんでいる。野球の好きな利用者には、職員が放送時間を伝えて一緒に観戦する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天気などを考慮し、散歩や買い物に行っている。本人の希望があれば、家族と連絡を取り合い、外食やお墓参りに行かれる方もいます。	日常的に、その日の気候や一人ひとりの身体状況に配慮し、庭で花の手入れをしたり、木の下に椅子を置き外気浴を楽しんだり、近隣散歩や買物、大型店に出かけたりしている。また、事業所外出行事として花見や菖蒲園見物、葡萄狩り等を計画し外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的に本人や家族に出納確認するうえで、財布(お金)を自己管理してる方もいます。本人や家族と話し合いの上で金銭出納はホームで管理している。御金のみを財布に入れて自分で持ってる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて、手紙や電話の対応支援をしています。又、利用者への手紙などは全て本人に渡しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が多く過す居間では、窓辺からの暑い日差しが眩し過ぎないようにレースのカーテンを二枚付け配慮している。温度や湿度に注意し、空気清浄機や除湿器をその都度使い分けている。季節の花などを飾る。	居間は庭に面して大きな出窓やベランダがあり、季節の花々や木を眺め楽しむことができる。ピアノや人形、利用者手づくりの作品を飾り、家庭的な雰囲気となっている。トイレ、玄関、台所等要所に手すりを設置し、安全に配慮している。エアコンを設置し、換気、温度、湿度を調節し、掃除が行き届き居心地良く過ごせる室内環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間以外のちょっとした空間にも、椅子などを置き思い思いの場所でくつろいで頂く、自室への出入りは自由にして頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は本人の使い慣れた筆筒やベット、仏壇など馴染みのある物を、持ち込んで使って頂いています。本人の好みの絵や写真を飾ったりしています。	居室は窓からの日差しが明るく、使い慣れた家具や大切な仏壇を持ち込み、趣味の本や写真を飾っている。利用者一人ひとりの生活スタイルに合わせて気持ち良く過ごせるよう工夫している。収納棚もあり、整理整頓している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜中でも迷わずにトイレに行ける様に廊下やトイレの電気は付けたままで、戸も開放し、居室の入り口には名札を付けたっています。		